

## 「ダイヤモンド宮殿の中庭」作:垣内宣子

1F プロムナード

イタリア・フェラーラにある外壁の白大理石から「ダイヤモンド宮殿」と名付けられた、世界遺産の中庭が舞台です。その美しい色彩に魅せられたら、ホームページ「ヨーロッパ世界遺産を描く」(<http://norikok1388.blog.fc2.com/>)をたずねてください。たくさんの作品映像や中原区役所をはじめとした原画が展示されている場所がわかります。



五つの高校で無料で絵を教えたり、小学校のために校歌を入れた校舎の絵を描いたりと地域貢献もされている宣子先生からのメッセージです。



アーティストを志す若人へ  
「家族の顔、漫画でも何でもいい。見て描く、想像して描く。身の周りのもの、なんだから描ける。なんでもモチーフになるでしょ。楽しんで描くこと、それが大事。」

画集『ヨーロッパ紀行 前編』について



「今まで誰も出したことがない本、どこからめくっても旅をしているように楽しめる本が作りたかったの。」

\*この画集はセンターの図書・資料室で見ることができます。



## 「ゲイバウ」(籠船) 1F ギャラリー

川崎市の友好港ダナン港のあるベトナム・ダナン市より友好の記念として寄贈されました。

竹を編んで作った大きな籠に牛糞や樹液を塗って防水されているのでしっかり水に浮くそうです。現在でも魚をとったり、沖で漁をしている漁船に頼まれると、弁当やコーヒー、人も4人くらいまでなら運ぶそうです。

「トゥエントウン」の名でも知られています。

# 交流センターでみつけた! 素敵アートたち

川崎市国際交流センターには、名だたる作家の美術工芸品があります。たとえば、『103才になってわかったこと 人生は一人でも面白い』の著書をはじめ、今なお活躍中の美術家・篠田桃紅さんや画集『ヨーロッパ紀行』をはじめ、美しい色彩で描かれる川崎市中原区ゆかりの洋画家・垣内宣子さん。目をとめてみるとたくさんの素敵アートがありますが、ここではその一部をご紹介します。お気に入りを見つけて来ませんか。

## 「南極の石」(5~10億年前の大自然アート)

この石は南極の昭和基地周辺のもレーン(氷河で運ばれた石の集まり)で採集され、重さは12.4kgあります。南極氷床(巨大な氷河)によって運ばれ、溶けた時に置き去りにされた「迷子石」と呼ばれるもので、よくみると赤褐色(ザクロ石)、黒(黒雲母)、白(長石)、半透明(石英)がみられます。このような石から南極大陸の内部の様子を知る手掛かりが得られるそうです。

(参考:元岩手大学工学部教授・矢内桂三氏の鑑定証明書)

2F 図書・資料室前



※大きさ:約27cm×20cm×13.5cm



## 墨象「出遭い(ENCOUNTER)」作:篠田桃紅

1913年、満州・大連に生まれて、筆と墨に親しんできた作家は古典を修練しつつ、1956年に単身ニューヨークに渡り、抽象表現主義を学んで東洋と西洋が融合した斬新で独自の作風を創造し、107歳になる現在でも活動を続けられています。

川崎市国際交流センターが作られた当時の記録からは「建築テーマである、日本の文化を新しく抽象的に表現することの一体感を表す」「日本や外国といった城壁を超えた交流の創出に深く関りをもってくれる」作品という想いが読み取れます。センターにはもう一つリトグラフで「BLESSING」という作品もあります。

(参考:「篠田桃紅の世界~文字とかたち」三越美術部)

1F 特別会議室 ※有料施設です。

## 「兵馬俑」(複製)

彼は高さ130cm、重さ100kgもある兵士の俑(人形)です。紀元前210年に秦王朝の始皇帝が亡くなった時、陵(墓所)を永遠に守るため、顔や姿が異なるたくさんの兵や馬が作られ、共に葬られました。中国・西安で発掘されたこの立派な「兵馬俑」から世界に触れ、国際交流を推進してほしいと、交流センター開館時に地元企業から寄贈されました。

2F 図書・資料室前

※原寸大の複製



## 「春日流落合鹿踊」の装束

1F 情報ロビー

平安時代村上天皇の頃、空也上人が人々の救済のため山中に庵をかまえ、その周りに鹿の群れが喜んで棲みついたところ、狩人が一匹撃つてしまいました。上人はこれを憐れんで葬り、弔いのため鹿の生態をまねて踊ったのが鹿(しし)踊りの起源だそうです。

宮沢賢治の「鹿踊りのはじまり」を読んだ方もいらっしゃるかもしれませんが。

岩手では今も踊られている神事芸能で、鹿が首をふるしぐさがたいへん上手く表現されています。友好自治体 岩手県和賀郡東和町(現 花巻市東和町)より寄贈されました。

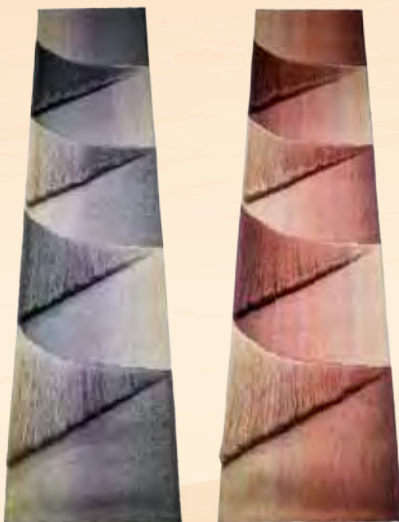
(参考:春日流落合鹿踊 郷土相伝の記録、花巻市史)



## タピストリー「FLAG」作:佐伯和子 1F ホール ホワイトE

作家が染めて紡いだ高さ4.5mもある大きなタピストリー作品は、色調があたたかく華やかなものと深く落ち着いたものとの対になっています。旗というタイトル通り、複雑な色調からはたくさんの旗がたなびくような風の動きも感じられます。ほかにもセンターには「アクアリウム」という作品があり、こちらは藻のような濃い緑から黄緑へと水面がゆらいているようです。

※有料施設です。



## 照明彫刻「光の船」作:高田洋一 1F レセプションルーム

この作品はパーティーや講演会が開かれる頭上で、たくさんの宇宙船が祝福の光をふりまきながら華やかに出港していくような光景を演出してくれています。作家は「交流する人々の新しい船出であると同時に、穏やかな海の中のリラックスした気分を作ること」を意図したそうです。みなさんはなにを感じますか。

特別会議室には別の照明彫刻「光の降る日」があります。※どちらも有料施設です。



## 庭園と石の彫刻 作:鈴木昌道

1F 情報ロビー 外

伝統的な日本庭園の手法を現代風にアレンジすることが得意な庭園作家は、センターでさまざま人々が出会い、交流するところを想像したのでしょうか。和=輪ととらえて、中庭にリング状の景石(けいせき)をデザインしたそうです。ほかにもセンターの広場には抽象的な石舞台がデザインされ、いつも家族連れや子どもたちが遊んでいます。

## センターアートの鑑賞デー

交流センターの開館記念日(10月12日)にちなみ、今回ご紹介した作品のある、いつもは借りないと入れない場所もオープンにします。ゆっくり鑑賞しに来てください。

開催日:10月10日(土) 10時~16時

\*参加者が多い場合は、一部入場を制限させていただきます。当センターは、マスク着用のお願いと、37.5℃以上の熱がある方の入館をお断りしております。

特集ページの写真:撮影ボランティア 安田芳郎